

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成27年8月号）

福島第二原子力発電所 1～4号機は、安定した燃料の冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

使用済燃料プール水の供給源となる タンクの点検を行っています

- 当所の各号機には、プラントで使用する水を貯蔵する復水貯蔵タンクが設置されており、このタンクに貯めた水は、原子炉や使用済燃料プールの水位を安定的に維持する役割も担う重要な水源になっています。
- このタンクの本格点検は、タンク内の水を別のタンクに移して行う大がかりなもので、2号機では、6月29日から9月中旬の予定で実施しています。
- 今回の点検では、水が入っている状態では確認することのできないタンク内面の目視点検や、底板の肉厚測定等を実施しています。
- 重要な水源となるタンクを点検している間でも、1号機や他の補給水系統等、使用済燃料プールへの水の補給手段を常に確保しながら、点検を進めています。



2号機復水貯蔵タンク



タンク底板の肉厚測定

緊急時でも確実に電源を確保するため 点検を実施していきます

- 当所では、全電源喪失といった緊急時においても、電源を確保するため、震災以降、ガスタービン発電機車（2セット）と電源車（11台）を配備し、常に本来の性能が発揮できるよう、定期的に点検を行っています。
- 7月から8月にかけて実施したガスタービン発電機車の定期点検では、ガスタービンや燃焼器等の各部位に変形や損傷等がないかを確認するとともに、燃料を供給する系統のストレーナ清掃やフィルター交換等のメンテナンスを実施しました。最終的には確認運転を行うことにより、ガスタービン発電機車が正常に機能することを確認しています。
- 今後も継続して点検等を行い、緊急時においても燃料の冷却に必要な設備へ確実に電源を供給できるよう、設備の機能維持に努めていきます。

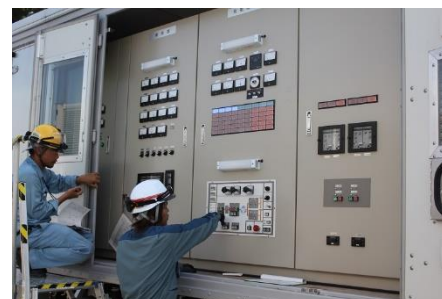
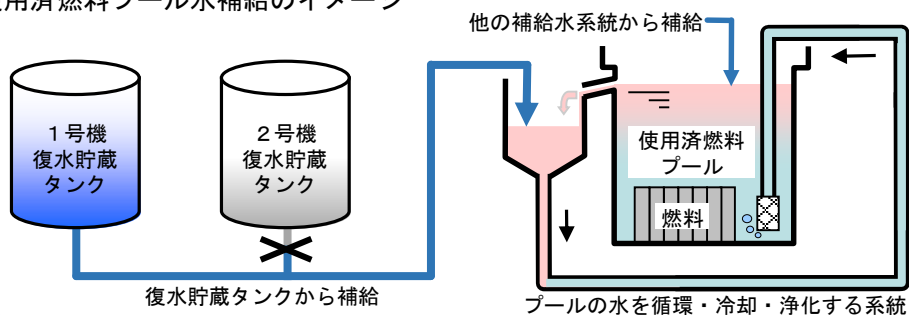


ガスタービン発電機車



燃料配管の点検

○使用済燃料プール水補給のイメージ



起動操作



運転後のガスタービンの確認

福島第一廃炉作業の後方支援

<溶接型タンク編>

- 当所は、福島第一廃炉作業の後方支援拠点の役割も担っており、その一環として、福島第一で使用するためにあらかじめ別の場所で製作した溶接型タンクの一部（全7基）を当所物揚場（港に面した敷地）まで専用の船で海上輸送し、一時的に保管・管理しています。
- タンクは、吊り上げ用の機具を含めると1基あたりの総重量は約75t（乗用車約50台分）にもなるため、陸揚げには大型のクレーンを使用します。
- この重量物を扱う作業は、専任の監視員が周囲の安全を確認しながら、作業員がお互いに声を掛け合い、慎重に進めました。
- タンクを当所物揚場で一時的に保管することで、福島第一の作業エリアを有効活用できるとともに、計画的なタンクの増設の一翼を担っています。



当所へ入港するタンク



専任の監視員による安全確認

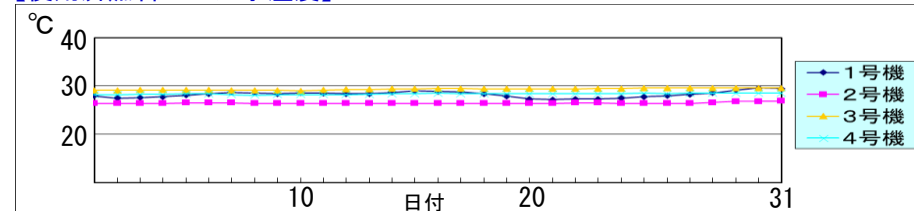


当所物揚場へのタンクの陸揚げ

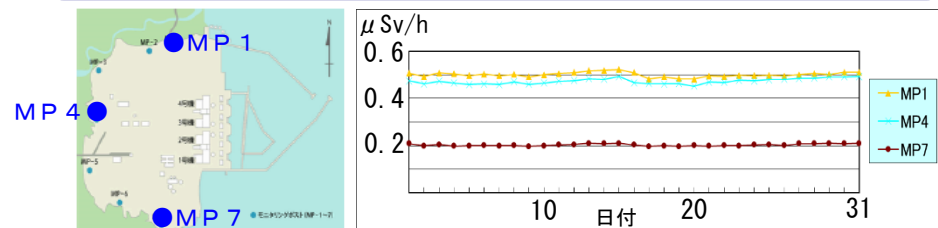
燃料の冷却状況（7月分）

使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

【使用済燃料プール水温度】



モニタリングポスト（MP）の計測状況（7月分）



設置しているMP7基のうち、3基を代表で記載しています。

さらに詳しい情報は当所ホームページをご覧ください。 <QRコード>
<URL> <http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>



4号機主排気筒モニター系における微量なセシウム134、137の検出について

- 7月23日、4号機主排気筒モニター系の試料採取用フィルターの定例放射能測定を行ったところ、検出限界値をわずかに上回る微量のセシウム134、137が検出されました（分析結果は下表の通り）。（同日、当所ホームページにて公表）
- 当所のプラント内の放射線モニターの数値や設備に異常は確認されておらず、同日行った4号機使用済燃料プール水の放射能分析結果においても、セシウム134、137の濃度は検出限界値未満であったことから、福島第一原子力発電所の事故に由来するセシウム134、137が捕集され、検出されたものと推定しました。
- また、当所敷地境界に設置しているモニタリングポストおよび主排気筒放射線モニターの数値は通常の変動の範囲内であることを確認しています。

核種	放射性物質濃度 (Bq/cm ²)	検出限界値 (Bq/cm ²)	半減期
セシウム134	4.6 × 10 ⁻⁹	2.5 × 10 ⁻⁹	約2年
セシウム137	3.8 × 10 ⁻⁸	7.8 × 10 ⁻⁹	約30年

* 試料採取期間：平成27年7月16日～7月23日
分析日：平成27年7月23日